FUJITA HEALTH UNIVERSITY

寿命がくるまで
発症させない、
認知症治療へ。

60代以降に多いアルツハイマー型認知症やパーキンソン病の発症を20〜30年遅らせて、健康なまま寿命を迎えるための治療法開発に藤田医科大学は挑んでいます。実はこれらの病の前兆には「五感」の低下があり、それをカバーしようと脳が過労の状態になることが発症に繋がります。そこで「五感」の変調を日常的に把握すべく、VRゴーグルやAIなどを活用して、歩くだけ、話すだけ、触るだけ…といった手軽な検査方法を研究。脳をエネルギー不足に陥らせない予防策の確立も目指しています。自分らしくはつらつと生きる姿を、老後の当たり前にするために。

救える力を、創りだす。

藤田医科大学